

トヨタ財団採択プロジェクト
キックオフシンポジウム



公益財団法人
トヨタ財団

『医療通訳者(士)と 機械翻訳のはざま』

「医療機関におけるOJT研修システムを
確立することで医療通訳の質の向上を図り、
外国人患者の安心安全な共生社会を目指す」

2021年 <オンライン開催>

8月25日 水 16:30~17:30

話題提供	16:30~16:45 「自動音声翻訳機の時代だからこそ、 医療通訳の役割がある」 山田秀臣先生 (東京大学医学部附属病院 国際診療部 副部長)
講演	16:45~17:15 「機械翻訳との距離の取り方を考える」 講師: 隅田英一郎 (国立研究開発法人情報通信研究機構 ユニバーサル コミュニケーション研究所先進的音声翻訳研究開発推 進センター 副研究開発推進センター長)
議論 質疑応答	17:15~17:30

この度、本セミナーは、国際臨床医学会の認定セミナーとなりました。
本セミナーを受講いただき、事後アンケートに記入いただいた方には、
国際臨床医学会の単位2ポイントが付与されます。積極的にご参加ください。

お申込みお問い合わせ 運営事務局

email miojttoyota@gmail.com



講師紹介



機械翻訳との 距離の取り方を考える

隅田 英一郎

国立研究開発法人情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所先進的音声翻訳研究開発推進センター 副研究開発推進センター長

機械翻訳の研究開発者の立場から最新状況を紹介します。機械翻訳を拒否するのでもなく機械翻訳に依存するのでもない距離感を模索する。定住している外国人は日本の総人口の2%ほどである。多くの先進国では10%前後なので日本もまだこれから増えるかもしれない。外国人も検診、予防接種、診療、入院、医療費支払い、医薬品の入手、介護等様々な接点で、医療にかかわる。出身国は多数にのぼり使用言語も多様だが、外国人は日本語も英語もできないことが多い。医療者は、語学は本来業務と無関係なので日本語以外、英語も含め苦手なことが多い。外国人と医療者に共通の言葉がない現状に有効な道具としての機械翻訳について皆様とともに考察する。

略歴

日本IBM、国際電気通信基礎技術研究所を経て国立研究開発法人情報通信研究機構。
2016年から同機構フェロー。2018年から会長として一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会兼務。
一貫して機械翻訳の研究に従事。

2025年に向けて音声翻訳の国プロを推進中。

又、2017年から総務省と連携し自動翻訳の高精度化のための「翻訳バンク」を運営。

<https://astrec.nict.go.jp/>

<https://h-bank.nict.go.jp/>

https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000298.html

<https://aamt.info/>